人体に宿る歴史

意年 生命40億年 │ 人類500万年 │ 文明1万年

「からだ」の「しくみ」の基本

図 1

宇宙150億年

生命の誕生

不要物

2酸化炭素

から必要なものを取り

図3 「からだ」全体の重心の安定と

①上腹部がくぼみ

②「からだ」の中心に力が集中し

「からだ」全体の重心の安定と 上腹部・下腹部との関係

「からだ」全体の重心が安定する

上腹部・下腹部との関係

細胞の「いのち」は成 細胞内の活動だけでは 原始の単細胞の時から

細胞外

さんの話を聞くと、

発言は7分程度にすぎない。

それでも

よう考え続けるべ

色あせることのない普遍的な重みが、続けるべきテーマだ。井深の問いかな比なくても、技術の奔流にのまれぬ

う考え続けるべきテーマだ。井淵答えが出なくても、技術の奔流に

井深の問いた

(ダライ)

話じゃない」と断じた言葉は厳し

社員の議論は、

デジタル化でどう業界の主

井深の観点は

フダイム」である。井深は体調が芳し

テーマに惹かれて参加を決めたと話して引である。井深は体調が芳しくなかった会して開かれた。 テーマは「ニューパ

れるのか。

AIが仕事を代替えする世界でな

にに生きがいを感じるのか

堂に会して開かれた。テーマは

会議は平成4年

部長級以上の幹部が

底から変え得ると思う。そのとき心は満たさ技術革新は思考や生活様式、社会の姿を根

的』という言葉に世界の

デカルトとニュー

トンが築き上げた『科学

人がまんまと騙され

歴史を内蔵している。

「からだ」

は

生命40億年の

井深は現代社会のパラダイ

ムの例として

②われわれの「から史を内蔵している。

は

地球45億年の

できた」と指摘している。

これがもたらす新たなパラダイムとは何だろ

人類の誕生

「取り入れ・排泄」体液の移動による

取り入れ 取り

の基本の

「はたらき」

0

栄養素

排泄」(図2)です。

2

取り入れ・消化・吸収・

体液の移動による

を『道具立て』とみたとき、

たのかもしれない

4

年の歴史を内蔵して

われわ

は

文明1万年の

万事が解決するとい

歴史を内蔵している

か大事なのだと訴えた。

こいえようか。これを覆すパラダイムシフト **わないこと」である。社会が共有する価値観**

をおおきく振り返りましょう(図1

われわれの「からだ」は1

50億年の歴

なにをなすべきかということにも通じてきま

われわれ現代人(図1)

そのためにも、われわれの存在そのもの

の言うパラダイムは「大衆全部が信じて疑

「いのち輝く未来社会のデザイン」 Designing Future Society for Our Lives に提案する

金てにすぎない

「デジタルだ、アナログだなんてのは、

がもたらす新たなパラダイムとは何だろう。

というところです。

科学技術を『道具立て』とみたとき、

ここでの長谷川氏の大事な提案は

、。これをもってニューパラアナログだなんてのは、道

イムというのは非常におこがまり

デジタル化は瑣事(さじ)だといわんばか

にもなりますので深く掘り下げて

てゆきます。

大阪万博誘致につけての一番の理由…根拠

社員に衝撃を与えたようだ。

たまごビル 石

〒581-0061

大阪府八尾市春日町1-4-4 電話072 (991) 3398 FAX072 (991) 4498 ホームページアドレス

大阪に万博を誘

表1 健康体の三大特徴

と形態と温度分布

迫しても圧痛は無く、

温度である。

「上腹部の柔軟度」

がやわる

「呼吸・循環・人体

まれ・生きぬき・老化し・

おのずから病気の

まれるため無理のない的確な治療とケア

老化と死に行くことにもおだやかなも一

予防となり、

つまり、「元気で生き=おのずから病気の

病気の時には自然の治癒力が

垄

がととの

ーズに運ぶ。

下腹部より少し低く手で

その圧迫をとくとすぐる



●生きる力がつく ⇒ 生き方が身につく ●総合的免疫力がつく ⇒ 予防ができる ●自然の治癒力がつく ●自然なバランス力がつく ⇒ 自然なケアー ●自然な死への流れができる ⇒穏やかな死 ■「からだ」の「しくみ」が生かされ ROB 治療で人生が統合される!

がありました。その内容は、

座経新聞論説副委員長

29年6月3日

(土) 朝刊

「健康体」の場合、頭部が足先より 約1度から3度高い範囲である。 (3)立位での姿勢

柔軟度があり適度な緊張がある。

また、腹部全体は温かくほぼ同一

「健康体」の場合、正面からみると

「健康体」の場合、立位で上腹部が

上腹部を圧

脊柱は正中線上でまっすぐであり
 側面からみると生理的に適切なS字 状の湾曲を保ち、人体の各部位に 分な緊張と力の過剰な 負担がなV

るために新たな「からだ」の

状態=「からだ」の「しくみ」がスムーズに「は である人類です。 官を生み進化してきたのが多細胞生物の一種 だらく」 状態= その現象=

がスムーズに

かい状態では、「たらく」状態=

「上腹部の柔軟度」

律神経・内臓全般の動き」がととのうため、かい状態では、「呼吸・循環・人体力学・

が生自

「取り入れ・ 「はたらく」

なできごとである。

うため、「元気で生きれー 刀学・自律神経・内臓全般の動き」

なり、老化と死に行くことにもおだやかなもまれるため無理のない的確な治療とケアーと

柔軟度」

《原始の単細胞の生命 **人体力学に至るまで》** か

構造・形態」との関係】 よる「体腔圧の変動」 「入り出」の原動力= と人体の「正常機能・ 「体液の移動」に

について】 【Ⅳわたし自身の「からだ」の気づきについ 【田人体力学 (姿勢と動作) 発見に至る経緯

【∀胸腹(むねばら)とはどういう状態か】 【V妻の妊娠による「からだ」 【Ⅲ背中・腰・膝の曲がり、 な発見につながる】 (特に人体力学=姿勢と動作の観点から)】 頚が回らない の変化が大き

どの姿勢と動作の異常は、「からだ」全体をすり足でないと歩けない、手が上がらないな 【畑お腹を押さえた痛み=腹部の圧痛と頚の 守るための防御反応

【M日々の生活の中で片寄った動き・ 緊張・背中・ ないにもかかわらず、 【X引き続き腹部の圧痛について】 【|| 取腹部の圧痛を明確にする】 だるさ・ 痛みがなぜ出るのか】 腰・膝の曲がりなどとの関係】 姿勢の異常・ 関節の変 姿勢が

(立位=立った状態)

【知あらゆる姿勢・ :上腹部の高低差には、相関関係がある】 動作と上腹部のくぼむ 固くなって

腹部の柔軟度」を通してさらに深く解明してゆきます

に至る原因が85パーセント不明だというその理由を、

の程度にあらわれ、 接な関係がある】 【Ⅱ「体腔圧の変動」状態が「上腹部の柔軟度」 人類の姿・形・動作と密 (生物学者)

全体をかばう結果として現れる。け負っている。つまり局所的なで 同時的な協働が作り出される。

とにつながってきます。 腹部の柔軟度」を通して深く解明 原因が85パーセント不明だという理由を、 福岡伸一氏の見方は、 してゆくこ

理由を、解明してゆきましょう。 に至る原因が85パーセント不明だというそ 前回に引き続きTさんの例を通 Tさんの「上腹部の柔軟度」

はたくさん食べられることが元気な証だと ②「食い力」という言葉があるぐらいで本

①上腹部がくぼまない ②「からだ」の中心に力が集中せず 「からだ」全体の重心が不安定に 語を使って

ています。

【以「からだ」の奥に潜む本質的な事項の確認】

ーセント不明だ

いうその理由を解明する①】 さらに解明する②】 ーセント不明だ

いうその理由を、 ーセント不明だ

おもしろいことがありました。福岡伸 氏の言葉を引用します

各ペーソ)カモニ・・・ 決定的に異なるものにしている。逆に言えば、 に上作る。でたれた任命を、単なる機械とは するためにある。それによって初めて全体 っている。つまり局所的な不調は、ーツの動きを多かれ少なかれ反映・ ーツの制限は、 ーツ相互の関係を それが私た ちの律

②たくさん食べられることが元気な証だと

るという意味ですが、本当に元気であれば、 「からだ」に必要な食事の量をいただいた時 食い力とは食べることによって力がでてく おのずからはしを置き、

的確に状態を表しているのでわたしはこの用 です。もともとは心療内科領域の用語ですが、 文字通り「からだ」の感覚を失っている状態 多くみられます。「失体感症」の状態です。や胃部の不快感や痛みを感じ取れない場合が ③ たくさん食べてもお腹が痛まない とその満腹感をキャッチできなくなります。 言えるのが正常です。 胃そのものに負担がかかっていても満腹感 内臓感覚がぼけている ごちそうさまと

なく内臓調整で内臓感覚がもどり「からだ」なってきます。この現象は悪くなったのでは じなかった胃の不快感や痛みを感じるように の量が少なくなってきます。また、今まで感 感覚を感じ取れるようになり、 の異常を感じ取れるぐらいによくなってきた その証拠に内臓調整を続けていくと、内臓 患者さんは治療を受けているにも みなさん食事

との関係を深める

審に思われます。そのため、この時は特に詳かかわらずいろいろな症状が出てくるので不

しくその「しくみ」を説明させていただきま

もちろん「上腹部の柔軟度」がやわらか

④ 定期検診において胃カメラでの検査結果はなかった。③ たくさん食べてもお腹が痛むということ このような①~④までの条件では、まさかご はいつも正常であった。

腰痛・変形性股関節症がおこっているとは、 ましてやこの①~④までの条件があるために とは思はないものです。 自分の胃腸が悪いとはだれも思わないもので 胃腸の「うごき」と「はたらき」が悪い

その謎ときをしてゆきましょう。

Tさんにとっても夢にも思はないものでし

及んだのです。 この状態では、明らかに上腹部がくぼまない ①「上腹部の柔軟度」が膨満し固い 続け腰部の変形、股関節の変形と手術までに の不安定さのバランスをとっていたために長 す(図4)。この方の場合腰部と股関節でそ 集中せず、「からだ」全体が不安定となりま ため下腹部の「からだ」全体の中心に重心が い年月、腰・股関節に物理的な圧力が加わり

は分からない

③ ましてやたくさん食べられること自体が 心の安定と関係があるなど意識したこともな (図3と4)

もそう思い込んでいる。

⑤また、現代医学の胃カメラで分かる範囲 Tさんの例を通して腰痛に至る原因が 0

理由を、さらに解明してゆきます。 お楽しみに。 題材にして「上腹部の柔軟度」を通して腰痛 に至る原因が85パーセント不明だというその

らだ」の「しくみ」を変えるものではない。⑥どんなに科学技術が発展しても、その「かのとなる」(表2)

進諸国・開発途上国にかかわらず全参加国に 課題をも解決することができるのです。 を未来にわたって受け継ぐという種としての の個人的な課題も、ヒトとしての「いのち」 この提案は全人類にとってのテーマであ 全人類にとっての解決策となります。

の歴史をもつ人類にとっても大きなパラダイ哲学・宗教・思想・技術・科学・医学など) ムシフトとなります。 また、1 万年の文明という創意工夫(知恵・

中が変わります。 動き」との関係を、特に人体力学との関係を 吸・循環・人体力学・自律神経・内臓全般のていただいている「上腹部の柔軟度」と「呼 そのためにも、この連載で度々お話しさせ お話しさせていただきます。

の滞留時間が長くなるため「上腹部の柔軟度」 が伸びてきます。それとともに腰が膝 つまり、 いつも腹いっぱい食べる人は胃で

がかたくなります。

股関節・膝が曲がってゆくのです そのため、 重心を安定させようとして腰・

④ 胃カメラの検査がい う。つまり、胃の表面の粘膜がどうなってい胃カメラで診断できるのは胃のごく一部で うも正常

があるかどうかにほとんど限られます。 動きが悪いと「上腹部の柔軟度」が固くなっ るかをほとんど診ていません。しかし、胃の 胃そのものの全体的な動きがどうなってい

られます。 る場合が多いのです(図4)。 てくるので、それが原因で腰痛を起こして このTさんの例などから以上のことが考え

「上腹部の柔軟度」が固いことなど自分で

②「上腹部の柔軟度」が「からだ」全体の重

元気な証だという社会的な風潮があり、

丈夫だと錯覚している。 ためだとはよもや思わず、逆に自分の胃は大自分の内臓感覚がボケて「失体感症」である ④ たくさん食べてもお腹が痛まない原因が、

視点もなく腰痛に至る原因も不明となる。 り、胃の動きは分からない。ましてや胃の動は胃のごく一部の粘膜の器質的変化のみであ があるとは分からない。そのため、 きの程度と「上腹部の柔軟度」とのかかわ が悪いとの自覚がないし、胃と人体力学的な ーセント不明だというその理由を

解明してきました。次回は肥満とストレスを

① わたしたち人! そのようなことから、 わたしたち人類は「生きもの」 人類とはどういう

を生かすことで、日本を再らの「からだ」の「しくみ日本の国民一人ひとりが、

「しくみ」

60兆の細胞から成り立っている人類も

よって細胞の

「いのち」は成り立っているの

日本を再生

らだ」の

「しくみ」は同じです

消化・吸収・排泄」の

一はたらき」

を

2

その現象=体液の移動による

環境の過酷な変化に対応して、

絶えず維持す

しくみ」

や 器

きぬき・老化し・死にゆく」という「い 多細胞生物である人類には、 「生まれ も

④ その「からだ」の「しくみ」がスムーズに「 ③ その「からだ」の「しくみ」である をつなぐ「からだ」の「しくみ」がある。 わたしたち人類にとっては正常 がやわ 指摘している『科学的』という『あいまいさ』 術が発展しても動じない主体的な『生き方』 から脱却できるだけでなく、どんなに科学技 このような観点からみると、井深氏が一部 氏の提案である

す。

とっての共鳴と共感を得られることになりま

大阪万博誘致に対して大きな原動力とな

つまり、元気で病気に苦しまず、こころ豊 と答えることになります。

かに幸せに人生をおくりたいという人類共通

る がもたらす新たなパラダイムとは何だろう。科学技術を『道具立て』とみたとき、それ 状態を日々の生活に活用・維持することであ らく状態=「上腹部の柔軟度」がやわらかい「からだ」の「しくみ」がスムーズにはた という問いかけに対し、 を人類が持つことができるものと思います。